

第2回 昭島市事務事業外部評価委員会 議 事 要 旨

〔日 時〕 平成26年8月18日（月）18：00～19：45

〔場 所〕 昭島市役所 3階 庁議室

〔出席者〕

1 委員

和田篤彦委員長、船越洋之副委員長、竹井和子委員、村上龍男委員

2 事務局

灘家行政経営担当主幹、板野財政課長、進藤企画調整担当主査、滝瀬財政係長、吉野企画調整担当主任

3 傍聴者 なし

〔配布資料〕

- ・ 第2回事務事業外部評価委員会 次第
- ・ 外部評価候補事業一覧（資料1）
- ・ 事務事業評価（外部評価）シート（案）（資料2）
- ・ 事務事業評価（外部評価）報告書（案）（資料3）

議事に入る前に事務局より配布資料の確認を行った。

〔議事要旨〕

1 外部評価対象事業の選定

事務局より資料1をもとに説明を行った。

○前回申し上げた通り、市業務全般から、8事業程度の選定をお願いしたい。【事務局】

《質疑応答》

- ◆それでは対象事業の選定を行っていく。候補として各委員が挙げた31事業の中から候補を絞っていく。最初に複数の委員が候補として選定してきた事業の中で、3人の委員が選んだ事業の選定理由を伺いたい。N0.85学童クラブ管理運営、N0.109公園維持管理、N0.155市立会館管理運営、これらの事業はそれぞれ3人の委員が候補として挙げてきた。選定の仕方にも多々あると思うが、従来、一委員の選定理由を伺うと、頷ける部分もあり、その中で合意してきたので、一律に多数決という形ではなく、理由を聞きながら選定を進めていきたいと思う。出雲委員は本日欠席のため、出雲委員の選定理由は資料1のとおりとする。それでは村上委員からご説明いただきたい。【和田委員長】

- ◆NO. 85 学童クラブ管理運営について、今後の方向性がA：成果拡大に向けて実施方法見直しとしており、その根拠、中身を詳しく知りたい。区部では児童・福祉分野の民営化が進んでいるが、昭島市は遅いのではないかと知っている。それらについて伺いたいと思い選定した。【村上委員】
- ◆学童クラブは女性の労働力としての期待が進む中で、今後、必要性は高まっていくものと考えられ、資料からみても運営費は増大しており、その増大する運営費について、どう考えればよいのか、そういった理由から選定した。船越副委員長、竹井委員はこの事業についてはいかがか。【和田委員長】
- ◆3委員から候補として挙げられているので対象事業として良いと思う。【船越副委員長】
- ◆それでは、学童クラブ管理運営を対象事業とする。続いてNO. 109 公園維持管理について、竹井委員からご説明いただきたい。【和田委員長】
- ◆市内の公園の状況について、自宅近隣の公園はきれいに整備されているが、市全体ではどうなのか。設備老朽化についての記述もあり、公園は市民の憩いの場として大切で、それらをいかに良い形で管理していくか、そのコストについても知りたいと思った。【竹井委員】
- ◆今後の方向性がC：抜本的な見直しが必要であると認識しており、具体的にどうしていくか、その内容と、前年度と比較して25年度決算額が下がった理由についても伺いたい。老朽化についてどのように取り組んでいるか、それらについてコスト面も含めて明確な説明を伺いたいと思った。【村上委員】
- ◆抜本的な見直しとは事業内容のことか経費についてなのか。緑のあきしまを維持していくためには公園そのものを縮小していくという考えはないと思う。市の人口も現状維持の見通しで、公園の重要性は変わらない。そのうえで担当者から直接、考えを伺い、我々もそれに対して外部目線から意見を述べていきたいと考えた。【和田委員長】
- 1点だけ捕捉させていただく。24年度決算について、緊急雇用創出事業臨時特例補助金で高木の剪定を集中的に行い、また、単年度の事業として上水公園の園路整備を実施したため決算額が上がっている。その分の特定財源も入っているため、一般財源ベースでは25年度決算とあまり差はない。単年度の特例事業によって、24年度決算額が上がったものをご理解いただきたい。【財政課長】
- ◆出席している3名が候補としているが、船越副委員長はいかがか。【和田委員長】
- ◆公園維持管理を対象事業とすることに異議はない。【船越副委員長】
- ◆それでは公園維持管理を対象事業とさせていただく。続いてNO. 155 市立会館管理運営について村上委員からご説明いただきたい。【和田委員長】
- ◆運営の効率化、コスト削減という点からお話を伺いたい。また、NO. 164～168の事業と重複するものはあるかどうか、統合の可否について伺いたいと思った。【村上委員】
- ◆内部評価シートの妥当性欄に、武蔵野会館のみ運営協議会による運営との記述があり、他の10館についてはどの程度検討が進んでいるのか、それらを含めて運営のあり方について、どう見直しが可能なのか伺いたいと思った。【竹井委員】
- ◆自分も近隣の緑会館を利用することがあり、地域にとって市立会館は必要不可欠なものだと感じている。市民にとって使いやすい施設で、利用者側からは便利だが、管理人のあり方や今後の利用度を高めるための運営方法を検討し、さらなる利便性向上を図っていただきたいと考えている。【和田委員長】
- ◆市立会館と市民会館の違いが分からないので、それについて伺いたい。【船越副委員長】
- 市民会館はコンサートホール等を備えた大規模施設で、市立会館は地域ごとに小規模の会議室、学習室を備えた施設である。学童クラブや図書館を併設している会館もあるが、地域の方のコミュニティ

を醸成するような会議等で使用できる施設である。自治会の集会施設より大きく、地域全体で使用できるものとお考えいただければと思う。【財政課長】

◆それでは、ご賛同いただけたようなので3委員が候補として挙げた NO. 85 学童クラブ管理運営、NO. 109 公園維持管理、NO. 155 市立会館管理運営を対象事業とさせていただく。次に2名の委員が候補として挙げている事業をみていく。【和田委員長】

◆NO. 24 地域情報化経費について、ホームページの管理等の経費にしては金額が少ない気がした。候補外 NO. 32 との違いを併せて知りたいと思った。続いて NO. 43 民生委員・児童委員等経費について、民生委員の負担が重いと聞いているが、実際の活動はどうなっているのか内容を知りたいと思った。【竹井委員】

◆NO. 43 民生委員・児童委員等経費について、民生委員への依頼業務増大について、また市で関与する度合いは妥当なのか。内部評価の今後の方向性はA：成果拡大に向けて実施方法見直しとしており、高齢化に伴うニーズ拡大にどう対応していくか、市民目線から考えていきたいと思った。【和田委員長】

◆NO. 55 障害者就労支援事業について、コスト削減を行ったという記載があったが、予算額が変わらない点が気になった。【船越副委員長】

◆保健福祉部の事業について、自分は違う分野の事業を候補としてきたが、NO. 43 民生委員・児童委員等経費については、児童委員と児童相談所・行政の関係について興味があり、NO. 55 障害者就労支援事業については、方向性がE：現状維持でよいのか、という気はするが、この2事業のうちのどちらかに決めるとすれば、NO. 55 は国がやるべきことだと思うので、NO. 43 について考えていきたい。【村上委員】

◆NO. 164 市民会館文化事業協会補助事業について、市立会館と市民会館の違いについてはご説明いただいたのでNO. 155 市立会館管理運営の方で結構である。【船越副委員長】

◆それでは2名の委員が候補として挙げているNO. 24 地域情報化経費、NO. 43 民生委員・児童委員等経費、NO. 55 障害者就労支援事業のうち、NO. 43 民生委員・児童委員等経費を対象事業とする。NO. 24 地域情報化経費、NO. 55 障害者就労支援事業についてはいかがか。【和田委員長】

◆情報システムに関する経費がいろいろなところがあり、一つのシステムに関するものではないと思うので無駄があるのではないかと考えた。何か一つ、情報システム関連の経費を選ぶのも良いのではないかと思う。【船越副委員長】

○庁内で使用するシステムについて、昭島市に関しては統合が進んでいる状況である。ただ、庁内で使用するコンピュータはシステムによってはセキュリティの関係からインターネットに接続しないものがある一方、小中学校で使用するパソコンについてはインターネットに接続して情報を得るなどの使い方をするので、その部分の使い分けが行われている。【財政係長】

◆大きなシステムごとに一つの事務事業ととらえられているようで、そういった細かい管理体制はどうなのかと疑問に感じたこともあったが、システムごとに開発・運営管理業者も異なっている状況である。【和田委員長】

◆同じような項目がいろいろあって、どういった分別になっているのか、無駄はないのか、統合できないかどうか、疑問に感じる。【竹井委員】

○情報推進課のシステムに関わる事業としては、NO. 21 住民基本台帳ネットワークシステム：住民基本台帳をネットワーク化した地方公共団体共同のシステム、NO. 22 財務・グループウェアシステム：契約や

購入の際の伝票作成や職員間のメールのやり取り等に関するもの、NO. 23 総合行政ネットワークシステム：住民票の発行や税の計算などの業務に関わるもの、NO. 24 地域情報化経費：ホームページ・施設予約などに関するものとなっている。セキュリティの面からそれぞれのシステムは融合しづらく、例えば業務系のシステムと外部接続するシステムを一つのシステムに統合してしまうとセキュリティ上危険性が増すため、こういったグループ分けを行っている。業者の選定についても昭島市は早くから自庁方式という形態をとってきた。コンピュータ化された当初は業者に委託して、そこにある汎用機にデータを送って処理してもらい、またそれを返してもらうという形態が一般的であったが、昭島市は自庁に一括処理ができるサーバを置き、自前で処理する形式をとった。マルチベンダー方式といって競争入札で業務ごとにシステムを導入していったが、それぞれ業者が異なるため、システムが増え細分化が進むと、ある程度まとまった方がコスト的に割安になる。入札の形態も競争入札からプロポーザル(提案競争)へ移行し、現在では業務系に関しては一社によって運営がなされている。常に効率的なシステム運用を心掛けているが、情報システムに関しては日々進化しているので、機会があれば現在の担当者から現状について説明を聞き、理解を深めていただくのも良いかもしれない。補足としては以上である。【財政係長】

- ◆システムについて無駄はあるのか、効率性はどうかと疑問に思う気持ちはよくわかる。過去二年の評価の中で、それぞれの業務に適応したシステムがあり、その中で効率的に業務が行われていること、ファイアーウォールの問題、コストの問題、他の市町村との連携体制についても良く取組まれていることを明確にご説明いただいている。ここで再度システム経費について対象とし評価を行っても、同じ回答があると思われるので候補にあげなかったことを申し上げておく。【村上委員】
- ◆総務部については意見が割れている。情報推進課の事業に関しては過去の議論の経過から取組状況は分かっているので情報推進課以外から事業を選定したいという意見と、システム関係の経費から選定したいという意見があるが、他にご意見があれば伺いたい。【和田委員長】
- ◆地域情報化経費以外の選定理由をそれぞれ伺いたい。【竹井委員】
- ◆それでは NO. 24 地域情報化経費を保留する。NO. 55 障害者就労支援事業について、保健福祉部からは NO. 43 民生委員・児童委員等経費が対象事業として決定しているが、はいかがか。【和田委員長】
- ◆1部1事業の選定でなくて良いならコスト削減の件も気になるので説明を伺いたい。【竹井委員】
- ◆基本的には1部1事業の選定で良いと思う。担当部署の負担もあるので、広範囲にいろいろなセクションから事業選定を行いたい。【村上委員】
- ◆それではご賛同いただければ、保健福祉部からは NO. 43 民生委員・児童委員等経費のみ対象事業とする。その他の事業の選定理由を伺いながら進めていきたい。【和田委員長】
- ◆NO. 11 職員研修経費について、人材育成は重要課題であり、今後の方向性がA：成果拡大に向けて実施方法見直しとあるが、受講者数減という現状。それから授業を聞きっぱなしで終わることのないよう、成果が上がっているかどうかを検証するシステムがなければ無駄ではないかと思っている。それらについて伺いたいと思い候補として挙げさせていただいた。【村上委員】
- ◆NO. 14 消防団活動経費について、災害時に行政に頼るのは難しく、実際に頼るのは地元に着している消防団だと思う。自助・共助が言われる中、消防団と行政の関係を知りたいと思い候補として挙げた。それでは総務部の事業を選んでいく。【和田委員長】
- ◆震災後、どの地域も防災面での取組は進めなければならない。消防団活動の現状における課題として

若手団員の技術習得とあるが、どの程度、若手の採用ができてきているのか、先の見通し、地域の現状を知りたいと思う。【竹井委員】

◆NO. 14 消防団活動経費は金額的に大きい。【船越委員】

◆村上委員の説明を伺い、NO. 11 職員研修事業の研修成果はどうなっているのか気になった。人員削減が進み、職員一人当たりの業務量が増えている。その中で能力アップを図らなければならないが成果はどうか、見えていない。育成の視点からはどうか、どういった苦労があるのか。消防団の活動も重要だとは思いますが、自分としてはこちらを総務部の対象事業としたい。【和田委員長】

◆村上委員、和田委員長のお話を伺い、どういった内容の研修を受けて、成果がどう出ているか不明な部分があるのでお話を伺ってみても良いと思った。【竹井委員】

◆それでは総務部からはNO. 11 職員研修事業を対象事業とする。【和田委員長】

◆NO. 32 自治会等補助事業費について、近隣自治会のお祭りは盛り上がり欠ける。市民の活動と対応していく形で、役員の自己満足に終わらないように、もう少し市民参加ができるように、地域コミュニティ全体で運営する方向に持っていっていただき、さらにNO. 33 コミュニティ推進事業費と統合した形でうまくやっていただければと思った。【村上委員】

◆NO. 34 葬祭事業費について、市民の利用率の低さ、聖苑組合の管理運営の妥当性に疑問を感じた。【船越副委員長】

◆NO. 35 消費生活相談事業について、消費者トラブルが増えつつある中、現状における課題も多く、優先度が高い割には、ニーズを満たす形で事業がなされているのか疑問を感じた。【竹井委員】

◆NO. 39 商工団体補助等事業について、現状における課題として、商工会の事業内容の硬直化を挙げているにもかかわらず、今後の方向性がE：現状維持という、その理由が分からず疑問を感じた。以上が市民部の事業だが、市民と接する機会が多い部署なので、この中から1つ選んでいきたい。【和田委員長】

○NO. 34 葬祭事業については予算額が大きいということで、その内容について申し上げる。25 年度決算額が 92,364 千円だが、うち聖苑組合負担金が 87,000 千円程度を占めており、建設に伴う借入金返済を含むので、組合の管理運営費だけではないことをご理解いただきたい。負担金は立川、国立、昭島の3市の人口で按分した額である。また、26年の10月に松原町コミュニティセンターが開設することに伴い、そこで家族葬並みの葬祭事業が行えることもあって、利用件数なども変わってくる見通しである。【財政課長】

◆船越副委員長の意見にあるように、自分も葬祭事業は民間委託でも良いと考えている。NO. 39 商工団体補助等事業費について、そもそも市が商工団体へ補助する必要があるかどうか。民間団体は自立した経営が望ましいと考えている。ただ地域振興は大事であり、それに地元の商工団体が関与しているのであればそれについてお話を伺っていきたい。NO. 34 消費生活相談事業費について、行政でもいろいろ窓口を設けて相談事業を行っており、別の窓口、他の取組で吸収できる部分もあると思うので、今回はNO. 39 商工団体補助等事業費を対象としていただければと思う。【村上委員】

◆NO. 39 商工団体補助等事業費でも構わない。【船越副委員長】

◆それでは市民部からはNO. 39 商工団体補助等事業費を対象とする。続いて環境部の候補事業について村上委員からご説明いただきたい。【和田委員長】

◆NO. 93 地球温暖化対策事業費について、地球規模の問題で大事だという意識はある。制度の見直しの必

要性を認める中でどのように見直しをするのか、お話を伺いたい。【村上委員】

◆NO. 95 水路等維持管理経費について、水と緑のまちあきしまの中で用水路の環境的な意味合いが強くなっていると思い候補として挙げさせていただいた。管理上の具体的な問題にどう対応していくのかを知りたいと思った。【竹井委員】

◆NO. 97 害虫駆除対策事業費について、駆除件数が減っているのに予算額が増えている点に疑問を感じた。【船越副委員長】

○NO. 97 の予算が増えている理由としては、単純に消費税アップ分の反映である。【財政課長】

◆NO. 101 ごみ減量啓発事業費について、過去にごみ対策関連の事業も評価してきたが、ごみ減量啓発について、これまで通りのやり方で良いかどうかを考えたいと思い候補として挙げさせていただいた。ここでも意見は分かれている。水路の維持管理についても、田圃面積は減少傾向にあり、用水路整備への支援体制についてや、農業用水だけでなく景観保持の意味合いの話をお伺いするという考えもあると思う。また、金額的にはNO. 93 地球温暖化対策事業費が一番大きい。【和田委員長】

○NO. 93 の内訳で大きいのは住宅用新エネルギー機器等普及促進補助金が 4,800 千円、続いて委託料が 980 千円、980 千円の内訳として森林保全活動体験事業、カーボンオフセット普及啓発物品の作成、エコドライブ教習委託で、残りはそれに伴う諸費用である。【財政課長】

◆今後の傾向として、市のレベルでも個人のレベルでも温暖化に対する対応が減ることはないと思うので、温暖化を見ていくのも良いと思う。【和田委員長】

◆昭島ならではの取組ということで水路を挙げた。費用的な面からも考えてみたいと思った。【竹井委員】

◆NO. 93 地球温暖化対策事業費については事業費なので、前回の説明では費用対効果から考えていくという内容だったと思う。この事業の費用対効果はどうか考えてみても良いと思う。【船越副委員長】

○これまで選定された事業の内訳として経費が 3 点、管理運営費が 2 点、事業費が 1 点選定されている。【財政課長】

◆それでは、経費内訳のバランスから考えて NO. 93 地球温暖化対策事業費を対象とする。続いて学校教育部の事業について選定を進める。NO. 126 コンピュータ教育事業費について、その内容にまで関与しなくて良いものかを検討し、昭島市のコンピュータ教育が他市のものに後れを取らないように進めていく必要があるという視点から選定した。【和田委員長】

○補足として申し上げる。候補外 NO. 259 コンピュータ教育事業費について、Windows XP のサポート期間の関係もあり、120,000 千円程度かけて小学校のコンピュータ全ての入れ替えを行ったため、金額的に突出している。【財政課長】

◆NO. 127 課外活動振興事業費について、スポーツ関連の活動への支援が主な感じだが、文化的活動に対する支援についてはどうなのか、また、公立私立問わず支援をすべきとの考えから、その状況についてお伺いしたいと思った。予算上は小中学校で分けていると思うが、活動支援という意味では同一の事業だと思われるので、その辺りから候補として挙げさせていただいた。【村上委員】

○NO. 127 と NO. 139 は同一事業である。指導課 (NO. 139) で部活動の指導補助員への謝礼の支払い、庶務課 (NO. 127) で部活動に伴う消耗品、指導備品、大会負担金の支払いという内容で、予算の執行上、別けて執行せざるを得ない部分があるが、同一の事業であるにご理解いただきたい。【財政課長】

◆NO. 129 特別支援教育事業費について、介助員や通級の指導員のための予算、現状としては正規人数を満たしているのか、また内容についてお伺いしたいと思い候補として選定した。【竹井委員】

- ◆NO.146 学校給食施設（調理場）維持管理経費について、共同調理場の建て替えに関連する問題について NO.82 給食管理経費と関連という視点と、食材の調達法に関してお話を伺いたいと思い、選ばせていただいた。【船越副委員長】
- ◆他の委員の選定理由を伺ってきたが、いかがか。学校給食に関しては過去に掘り下げて評価を行っており、外部評価の意見もそれなりに反映されていると考えている。自説にこだわらなければ、特別支援教育事業費について、市内でもいくつかの学校で実施されているが、今後対象児童が増えていくのではないかと思っている。弱者へのフォローを考え、外部評価を受けることで、市としてもこういった事業に力を入れているということをしてPRできるのではないかと感じている。【和田委員長】
- ◆学校での支援体制が不十分だという保護者の方からの意見を耳にする。昭島市における特別支援教育事業がどれだけニーズを満たしているものなのか興味がある。【竹井委員】
- ◆児童よりも保護者へどのような取組をしているかに興味がある。現場の教職員の方々は非常に真摯に取り組んでいるが、そのPRの仕方が足りないのではないかと感じている。保護者の方への取組も含めて特別支援教育について考えていければと思う。【村上委員】
- ◆それでは学校教育部からはNO.129 特別支援教育事業費を対象事業とする。以上で8事業の選定が終わったので確認を行う。総務部職員課 NO.11 職員研修経費、市民部産業活性化室 NO.39 商工団体補助等事業費、保健福祉部生活福祉課 NO.43 民生委員・児童委員等経費、子ども家庭部子ども育成課 NO.85 学童クラブ管理運営費、環境部環境課 NO.93 地球温暖化対策事業費、都市整備部管理課 NO.109 公園維持管理経費、学校教育部指導課 NO.129 特別支援教育事業費、生涯学習部社会教育課 NO.155 市立会館管理運営費、以上である。

2 評価基準の確認

事務局より事務事業評価（外部評価）シート（案）（資料2）及び、事務事業評価（外部評価）報告書（案）（資料3）に基づき、評価方法説明を行い、前年と同様の評価方法で実施することを確認した。

3 その他

事務局より今後の委員会の日程について、説明を行った。

- 次回、第3回外部評価委員会は10月9日、本日選定いただいた8事業について、それぞれの担当課から事業の事前説明をするので、質問・資料請求があれば9月12日までにご連絡いただきたい。10月9日は午前9時から8事業の説明を行っていく。【事務局】
- ◆それでは10月9日（木）9時から事前説明を行う。本日はありがとうございました。【和田委員長】

～閉会～